

令和2年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第1回コーディネーター部会 記録

日時：令和2年8月21日（金）10:00～
午前10時00分～午前11時30分
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

出席者

団体名・役職等	氏名
愛知教育大学 教授	大村 恵
一般公募	畑 和子
一般公募	大野 裕史
刈谷市自治連合会	深谷 晴紀
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
刈谷市ボランティア連絡協議会 副会長	矢田部 寿子
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶
刈谷市小中学校長会	澤田 佳予子

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	課長	石川 領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	酒井 聡
市民活動部市民協働課	協働推進係長	酒井 武士
市民活動部市民協働課	主事	西村 亜津
NPO 法人ボランタリーネイバース	理事・調査研究部長	三島 知斗世
NPO 法人ボランタリーネイバース	協働コーディネーター	鈴木 孝廣

1 開会・あいさつ

- 1) 定刻になり、協働推進係長が開会を宣した。
- 2) 部会長あいさつ

市民ボランティア活動センター（以下、ボラセン）のロビーに、日本女性会議をオンライン開催することになったという掲示があった。愛知教育大学でも、3大学合同の研究大会をオンラインで開催することになっている。接続テストが大変だったりするが、そうした変化も必要と思う。

他方、新型コロナウイルス感染症で、社会教育、地域づくり、人と人のつながりが大きな影響を受けている。脆弱な立場の人が私たちの知らないところで孤立していないかという心配がある。新しい状況の中でのまちづくり活動についても、この部会で考えたい。

2. 議題

(1) まちづくりコーディネーターについて

■資料 P. 1～3 を提示し、まちづくりコーディネーターの概要、令和 2 年度の活動状況などについて事務局が説明

- まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）は地域の課題を「自分ごと」と考えて行動し、ボランティアや市民などをつなぐお手伝いをする人。育成講座「つなぎの学び舎・実践編」を修了した人を中心に、現在 36 名が登録している（内、休止中 9 名）。
- 令和元年度は、住民会議のファシリテーション 3 件、ファンドレポート作成 4 件など、合計 13 件のまちコ派遣を行った。他に、まちコ定例会・交流会を行っており、各自の自主的な活動もある。
- 令和 2 年度の活動は、住民会議 1 件と団体からの依頼 1 件が新型コロナの影響で取りやめとなり、まちコ派遣は市の事業（つむぎ場、しゃべり場）のみとなっている。定例会・交流会は延期している。「つなぎの学び舎・実践編」のまちづくり活動お助け隊コースは予定を変更して 9 月から実施予定。
- オンラインでの会議やイベント開催の需要が高まっていることが予想されるなか、まちコがオンライン会議に対応しているかのアンケートを実施する。市の事業でも、つむぎ場、しゃべり場をオンライン開催するべく企画を進めているほか、会議にも取り入れている。

■質問・意見交換

部会長：まちコ定例会は開催できていないのか。

事務局：そうである。7 月に定例会を再開しようとしたところ再び感染拡大があり中止した。しゃべり場、つむぎ場の打ち合わせを実施している。参集しての会議にオンラインを組み合わせ、どちらの方法でも参加できるようにしている。まちコの派遣はつむぎ場に 5 名、しゃべり場の企画会議のファシリテーターとして 1 名。

委員：まちコの一人であるが、まちコとしてつむぎ場に、（ファシリテーターとは別に）企画メンバーとしてしゃべり場に参加している。つむぎ場では、グループに分かれてのファシリテーションをオンラインでうまくできるか心配があった。ファシリテーション技術も向上しなければと自主勉強会を考えている。しゃべり場の企画会議では、当日の開催方法をオンラインでやることにメンバーの意見がまとまった。

委員：まちコ向けアンケートで、問 3 の「タブレット PC」の PC という記載は外した方がよい。

事務局：表現を修正する。

(2) 市民団体への新型コロナウイルス感染症による活動への影響についてのアンケート調査について

■資料 P. 4～6 を提示し、アンケートの趣旨、内容、実施方法について事務局が説明

- 市民活動・地域活動が新型コロナの影響により変化していくことが考えられる。まちコがそうした状況に対応して活動していくことを想定し、活動状況や支援ニーズを調査する。
- ボラセン登録団体（約 500 団体）を対象とし、10 月下旬に送付する。

■質問・意見交換

部会長：「活動場所」が択一式なのはどういうことか。

事務局：主な活動場所という意図で単数選択とした。活動場所によってコロナの影響の受けやすさが違うのではと仮定していたが、複数選択にしてもよいと思う。

委員：活動分野などは既にポラセンに登録されている内容である。改めて聞く必要があるか。

事務局：アンケートの回答だけで集計できるようにするためである。ポラセンとも相談して、保有データを活用して簡易にできるか検討する。

部会長：市民協働課に支援してほしいことを書く欄はあるか。団体のニーズを聞くことと、まちコによる支援に対するニーズを聞くことは、切り離れたほうがよいのではないか。

事務局：まちコによる支援に限定することで回答の傾向が変わってくるのであれば、ニーズのみを聞く方法もある。表現を検討する。

部会長：活動に必要となる、仕切り板の貸し出しや手指消毒液の頒布などのニーズを聞いてはどうか。

事務局：まちコが支援できることの掘り起こしが当初のねらいだったので、載せていなかった。仕切り板を使いたいという声を聞くことは少ない。消毒液は手に入りやすくなっており、頒布の必要性は低くなっていると考えます。

部会長：自由記述の設問で幅広いニーズが拾えるとよい。また問2・問3は、新型コロナウイルスの影響によるものを尋ねるのであればその旨を記し、そうでなければ、コロナの影響によって/コロナの影響にかかわらずの2つに分けて尋ねてはどうか。

事務局：コロナの影響による内容として尋ね、回答者が迷わないよう工夫する。

委員：アンケートはGoogleフォームなどオンラインでできないのか。

事務局：今回は郵送で行う予定である。アンケート結果は次の部会で報告する。

委員：問3の「2.企画運営のお手伝い」は、企画書の書き方と、当日の運営体制づくりの支援といったように分けてはどうか。

事務局：ご意見を踏まえて内容を整理する。

部会長：アンケート結果に基づいた対応の検討はどのような場でやるか。

事務局：まちコ定例会、交流会などの場を考えている。

(3) まちづくりコーディネーター紹介のチラシの改訂について

■資料 P. 7 および別紙資料（チラシ改訂案、現行のチラシ）を提示し、改訂の趣旨について事務局が説明

- ・現行のチラシは平成24年度に作成したもので、ファンドレポートなど最近加わった活動について書かれていない。またチラシを通じての申し込みがほとんどないことが課題。
- ・具体的な活動事例を記載し、まちコの活動イメージを持ってもらうことで、派遣依頼の増加をねらう。

■質問・意見交換

部会長：今年度中に改訂版を作成するということか。

事務局：そうである。

委員：とても分かりやすい。自治会イベントの活動事例の記述は、正しくは「ゲームの考案」である。

また、まちコ依頼時の費用負担は、交通費・諸経費としてという内容を書き加えた方がよい。

事務局：修正する。

部会長：複数回の派遣でも3000円ということか。

事務局：そうである。1回ではなく1件当たりの費用。

部会長：まちコが何人くらいいるか、数で見せられるとよい。いろいろな町内にいるものなのだと思うてもらえるとよい。

委員：南部・中部・北部で何人いるかなどが分かるとイメージしやすい。

事務局：何年も使う予定のチラシなので数字の記載を避けていたが、いつ時点の人数にするなど書き方を工夫して記載することを考えたい。

委員：ワールド・スマイル・ガーデンの活動にまちコを派遣してもらったが、当日まちコが来ていることに最初は気づかなかった。存在感を出せるとよいと思う。

事務局：現状、名札と缶バッジを配布している。それでも分かりづらいという意見はあるので、他のアイテムを用意することを検討中である。

部会長：アイテムができれば、「まちコは〇〇を身に付けている」ということもアピールするとよい。活動が忙しくない今年度のうちに作成できるとよいのではないか。

委員：Tシャツよりピブスが身に着けやすいと思う。

委員：まちコのロゴマークがあるとよい。

事務局：ユニフォーム、ロゴなどはまちコのみなさんを交えて参加型で決めていきたい。

委員：派遣を依頼できる人は誰か。商店街のようなところからの依頼はあるか。

事務局：「刈谷市に在住・在勤・在学・在活の方」と記載していて、市民活動には限定していない。商店街などは、営利事業でなく地域振興ということであれば引き受けられるが、実績はない。

委員：まちコの立場でこのチラシを見ると、書かれている内容はハードルが高くなく、こんな活動なら自分たちもできそうと思える。

委員：もう少しイラストが見やすいとよい。また、チラシを見ての依頼がほとんどないということが気になる。例えばチラシではなくてQRコードだけを載せるという考え方もある。他方でチラシを活用するならば、配布・手渡しする機会を増やすなどの工夫が検討できるとよい。

事務局：まちコを知らない人がまだ多い状況なので、広報については工夫を重ねたい。

部会長：知っていただく主な対象者として自治区長さんがいると思うので、チラシも重要だと思われる。地区長さんから見てどう感じるか。

委員：地域の周りでまちコはいなかったもので、これまでこの制度をよく知らなかった。依頼数を増やすためには、受け身で依頼を待っているだけでなく、まちコの方から仕掛けていくようなことはできないか。例えば、盆踊りをどう活性化していけるかといったテーマで取り組むなど。まちコの皆さん自身にも考えてほしい。

部会長：元々、地域の中で自分ごとの感覚をもって活動する人を増やそうということからコーディネーター育成を始めた。「つなぎの学び舎」の基礎編は地域推薦の仕組みもあり、まちコに登録していないが学び舎基礎編を修了した人は、地域にいたので、そうした方にも活躍していただくことを期待している。また、これまで話し合いをして新しい活動も増やしつつある。

委員：学校にいて自治会や子ども会などの話を聴いていると、つながりが疎遠になることを課題に感じている人は多い。困っているというところで話が終わってしまう。困っているということはニーズであると思うので、そこへ情報を届けられるとよい。

委員：今年度PTA会長をしている。コロナでPTAの活動が止まっているが、形を変えて活動しようとしており、子ども会やPTAでの需要はあると思う。会長の一存では決められないものの、まちコがお手伝いできるという情報が色々なところから届くと周知が進み「依頼してみよう」という提案もしやすくなるのではと思う。

部会長：文部科学省が進めている地域学校協働本部にはコーディネーターを置くことになっていて、まちコの趣旨に通じるものがある。自治体によって状況は違うが、刈谷ではどうか。

委員：話には出ているが、刈谷ではPTAが活発であるなど、学校運営が安定しているため切実さはない。

部会長：コロナの影響も踏まえて、色々なご意見をいただいた。今年度の取り組みに反映してほしい。また、まちコの定例会をオンライン化して再開し、アイデアを出してもらえるとよいと思う。

(4) その他

■次回の開催日程

- ・第2回コーディネーター部会
令和3年1月を予定
- ・(参考)第1回推進委員会
令和2年10月15日(木)10時から、刈谷市役所101会議室
- ・いずれも、オンライン参加が可能。